

約400年前の窯や陶片が久々利で発見され、国宝の志野茶碗「銘 卯花塙」が焼かれた可児。

ここでは、「美濃桃山陶の聖地 可児」の魅力と今年9月に開催される国際陶磁器フェスティバル美濃'21を紹介していきます。

世界が認める美濃の陶芸(後編)

美濃の陶芸と聞いて、可児を連想する人は多くはないかもしれませんが、しかし、歴史をたどれば、美濃桃山陶の誕生も荒川豊蔵による再興も、可児が起点となっています。美濃の陶芸を代表する黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部の伝統技術は、現在もこの地域で活躍する陶芸家によって受け継がれ、日々進化しており、平成30年には、その伝統技術を市の重要無形文化財(以下参照)として指定しました。

近年、美濃の陶芸は国際的な注目を集めています。その理由は、日本的なデザインや品質のみならず、作品の背景にある歴史とそれを受け継ぐ作り手の存在など、幾重にも重なる魅力的な物語があるからなのかも知れません。

市重要無形文化財 美濃桃山陶の伝統技術

指定した技術と認定した技術保持者(順不同)

黄瀬戸 原憲司さん 瀬戸黒 豊場惺也さん 織部 瀧口喜兵衛さん
志野 加藤弥右衛門さん、守谷宏一さん、堀俊郎さん



久々利大萱で美濃桃山陶の再興に取り組む荒川豊蔵
(1955年頃/加藤碩三撮影/多治見市図書館郷土資料室提供)

国際陶磁器フェスティバル美濃'21
INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL MINO'21, JAPAN
開催期間 9/17～10/17 会場 セラミックパークMINO、荒川豊蔵資料館 他

問 国際陶磁器フェスティバル
美濃実行委員会事務局
☎0572⑤4111



イベント紹介① 可児陶芸協会作品展 (10/9～12) 「今、桃山リスペクト」

美濃桃山陶を愛し、探求し、また新たに創造する人で平成23年に設立された可児陶芸協会。その会員17人による作品展です。美濃桃山陶を心に秘めて切磋琢磨しながら作陶した作品を、ぜひご覧ください。



イベント紹介② 東美濃物産展 in MI-NO (9/17～10/17)

フェスティバルの開催期間中、東美濃地域の秋の味覚などを中心とした特産品をセラミックパークMINO内「ショップ&ギャラリー MI-NO」で販売します。芸術的な陶磁器で心を満たした後は、美味しい特産品でお腹を満たして秋を満喫しませんか。



7館共通入場券「セラミックバレーぐるっとパス」好評発売中!

国際陶磁器フェスティバル美濃'21の会場となる7施設で開催される企画展全てに入場できるお得な共通入場券です(施設によって利用期間が異なります。詳しくはHPをご覧ください)。

- 前売り券 1,200円(9/17以降は大人1,500円、シルバー・団体1,300円)
- 販売場所 可児郷土歴史館、荒川豊蔵資料館、セラミックパークMINO 他